

日本の文化と日常

動画リンク:

日本の文化と日常

あなたに日本という国を知ってほしい。日本人を知ってほしい。
そう思ったので「日本は〇〇です」「日本人は〇〇です」として、簡単な文章で「日本」と「日本人」について紹介します。
日本語の勉強だけでなく、日本のことも一緒に勉強していきましょう。

また、この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」がついています。後半は少しか速くなり、漢字に「ふりがな」はありません。学習にお役立てください。

それでは早速「日本の文化と日常」について学びながら、日本語を勉強していきましょう。

■日本は治安がとても良い

その国の治安の良さを評価する「世界平和指数」というものがあり、日本は世界9位です。
世界平和指数は、経済平和研究所という団体が23項目にわたって163か国を分析し毎年発表しているものです。
ちなみに、1位はアイスランド、2位はデンマーク、3位はアイルランド、4位はニュージーランド、5位はオーストリアです。
アジアで30位以内に入っているのは日本だけです。
ただ、台湾は年々少しずつ順位を上げ、31位にランクインしています。

自動はんばいが多いことや、電車内で寝ること、無人の販売所(お弁当や食材など)、これらは日本という国の治安の良さを表しています。
カフェなどで自分の席を確保するために、バッグなどを置きっぱなしで席をはなれる行為などは、多くの外国人がおどろくようです。

■日本では道で酔っ払いが寝ている

一部の日本人は、お酒を飲みすぎて、酔っ払って道で眠ってしまいます。
海外でも夜の街での飲酒は普通のことですが、ベロベロになるまで酔っ払うということはまずありません。
なぜなら、とうなんや事故に遭いかねず、とても危険だからです。
ちなみに「ベロベロに酔っ払う」ことを「泥酔状態」といいます。
泥酔状態の正確な意味は「何もわからなくなるほど、ひどく酒に酔うこと」です。

■日本のコンビニはすごい

日本にいと24時間営業のコンビニがあることを当たり前と感じてしまいが、多くの外国人に驚かれます。

世界にはコンビニがない国も多いです。24時間営業で温かい食べ物などいろいろなものを売っているお店は貴重です。銀行のATMやコピー機などもあり本当に便利です。

日本のコンビニの品揃え、値段、品質に海外の人は驚くようです。

■日本のデパ地下はすごい

海外の人から「日本のコンビニは品質が高い」と評判ですが、さらに高い品質の食品を買えるのがデパ地下です。

デパ地下とは、デパートの地下を意味しています。

伊勢丹、阪急、高島屋、三越、松坂屋、そごう、東急、小田急などのデパートが日本では有名です。

デパートは百貨店という意味です。

ほぼすべてのデパートでは地下に食品売り場が集中しており、日本人から「デパ地下」と呼ばれ、愛されています。

デパ地下で売られる食品は、コンビニで買うより少し高いですが、とてもしんせんでおいしいです。

日本のデパ地下に行くときは是非お腹をすかせて行ってくださいね。

きっと、日本の「デパ地下」のクオリティにあなたはおどろき、かんげきすると思います。

■日本のドラッグストアはすごい

日本で有名なドラッグストアといえば、ウエルシアやマツモトキヨシです。

日本のドラッグストアには何でもあってすごい！とかんげきする外国人が多いようです。

中でも、365日24時間営業のウエルシアO-GUARD新宿店は毎日多くの外国人観光客が来店します。

なんと、このお店の前を1日6万人の人が通るそうです。

1階の入口付近には弁当・惣菜・菓子・飲料・酒などをそろえたコンビニエリアがあります。

その他には医薬品エリアもあります。

1階のレジ前には淹れたてのコーヒーのはんばいきがあり、てんぼ入口付近の窓がわにはイトインスペースもあります。

「イトインスペース」は日本独自の和製英語と呼ばれるもので、英語圏で使われているわけではありません。

海外の英語圏では通じませんが、日本ではわりとよく使われるので覚えておきたい和製英語の1つです。

2階は主に化粧品エリアです。

女性だけではなく男性用の化粧品も販売しています。

ウエルシアO-GUARD新宿店は、新宿駅西口に続く大通りと青梅街道が交差する交差点にある複合ビル「オーガード新宿」の1階・2階にあります。

東京の新宿を訪れたときは、是非ここに立ち寄って、お土産のお菓子や化粧品などを探して楽しんでください。

■日本人は正直者が多い

多くの日本人は、落とし物を拾ったら警察に届けます。たとえば2022年は現金だけで40億円弱が警察に届けられました。

この金額は、日本のおける「現金の落とし物」としては過去最高金額だそうです。

日本では落とし物を警察に届けて、落とし主が見つかった場合、落とし主から5-20%のお礼が渡されます。

拾ってくれたお礼としていくらのお礼(お金)をあげるのかは、落とし主が決めることができます。

■日本におけるレストランでの店員の呼び方

レストランで店員を呼びたいとき、海外ではアイコンタクトをとって、目があったら手を挙げたり声をかけるなどが多いと思います。

日本でも同じで、手を上げるか「すみません」と声をかけるのが一般的です。

落ち着いたレストランでは店員を大きな声で呼ばず、騒がしい居酒屋では逆に少し大きな声で店員を呼ぶなど、お店の雰囲気にあった声の大きさで呼ぶとよいでしょう。

お店によっては、店員を呼びたいときに押すボタンがある場合もあります。押すとすぐに店員が来てくれるのでとても便利です。

■日本では食事や飲み物は残さず食べる

世界には食べ物を残すのがマナーの国もあります。

しかし、日本では基本的に食べ物や飲み物を残さないほうが良いとされています。

食べきれなかった食事を持ち帰るサービスもありますが、全てのお店が対応してくれるわけではありません。

食事を注文するときは食べられる分だけをオーダーするようにしましょう。

■日本では形式に決まりの多いビジネスメール

日本のビジネスメールは、決まった形式のような文章が多く、面倒に感じる人もいるかもしれません。

基本的な書き方はテンプレートを参考にできますが、敬語の使い方などは覚えておいて損はないでしょう。

■日本人の10分前行動の時間感覚

電車やバスが数分遅れると「遅延」と表示するなど、日本人は1分1秒を大切に思う人が多いです。

商談やミーティングは、時間通りに始められるように開始時刻の5～10分前には準備ができていると好ましいです。

これを覚えておくと、日本人とスムーズにコミュニケーションが取れるようになります。

■日本の交通きかんで静かにしましょう

海外では電車やバスなどの交通きかん内で電話することは当たり前という国が多いです。

しかし、日本では電車やバスで電話することは原則禁止で、大声で会話することも良くありません。大きな声を出したりして騒がしくしないように注意しましょう。

電話で話すことをしなくても、電車のなかでは大きなチャクしん音が鳴るだけで皆がおどろいてしまいます。電車に乗るときはマナーモードにしておくことをおすすめします。電車やバスを利用するときは周りの人に迷惑をかけないように、できるだけ静かにしましょう。

■日本の食事のときのあいさつ

食べる前に「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさま」といいます。

日本では、何もいわないでいきなり食事を始めるとマナーが悪いとみなされることがあるので注意してください。

海外では宗教や文化などの慣習で食事の前に神様に感謝を示すようなこともあります。

しかし、日本の「いただきます」「ごちそうさま」は、食べ物や生産者に感謝を示すためのものであり、無宗教の人にも習慣となっている文化です。

■日本では箸の使い方にもまつわるマナーが多い

箸をあまり使ったことがない人は、苦勞することがあると思います。
さらに、日本には箸で食器を手元に持ってくる「寄せ箸」や、食事中に食器の上に箸を置く「渡し箸」など、箸に関するマナーがたくさんあります。
箸の使い方に気を遣いすぎると食事を楽しめなくなってしまうかもしれませんが、最低限の持ち方やマナーは一度確認することをおすすめします。
箸を使うことで日本文化を感じることができますが、難しいようであればフォークなど食べやすい食べ方で食べましょう。
本来、箸で食べるような食事であったとしても、あなたがフォークを求めて怒ったり嫌な顔をする日本人はほとんどいません。
もし、そういう人がいたとすればその店には二度といかないようにしましょう。

■日本では新学期が4月に始まる

海外では9月に入学式や始業式が行われることが多いですが、日本では新学期が4月に始まります。
途中で会社に入社する中途入社というのがありますが、一般的には会社に入社するのも4月です。
会社のお金の計算も4月から新しくなります。
そのため、4月は「新年度」と呼ばれ、3月は「年度末」と呼ばれています。
年度末の3月は、翌月の新年度に向けていろいろと準備をしたりするので忙しくなることがあります。

■日本人はひんばんにお辞儀をする

お辞儀とは、あいさつやかんしゃ、敬意などを表すために、相手に向かって腰を折り曲げる動作です。
公共施設やお店を利用すると、スタッフがお辞儀をします。
ビジネスにおいても、取引先の社員とのあいさつのときや別れるときなど、何度もお辞儀をします。
お辞儀の文化がない国の人からすれば違和感があるかもしれませんが、これは日本人にとっては当たり前の行動なのです。
「お辞儀」は「辞儀」の丁寧な言葉ですが「辞儀」だけで使われることはほとんどありません。
ちなみに、家族や親しい友人にはお辞儀はしないのが普通です。

■日本の飲み会

日本では、仕事が終わったあとにみんなで飲み会に行くことがよくあります。「飲み会」とは、みんなでお酒を飲んだり食事をしたりすることです。
しかし、外国の人から見ると「なぜ仕事の人とプライベートな時間にも会おうの？」と思うかもしれません。確かに、日本人の中にも最近では「飲み会に行きたくない」という人が増えてきています。
特に仕事の人とする飲み会で気を付けたいのが「お酌」の習慣です。簡単にいうとお酌とは、年齢や立場が下である人が自分より偉い人にお酒を注ぐことです。最近ではあまり気にする必要はありませんが、外国人であるあなたがこれを知っていれば相手に喜ばれるはずです。
飲み会のときに「無礼講」という言葉を聞くかもしれません。これは、年齢や立場に関係なく対等な関係でお酒を楽しく飲もうという意味です。けど、その言葉を信じて怒られる場合もあるので、偉い人が言う「無礼講」には騙されないように注意してください。

■日本人はクリスマスも普通に仕事をします

多くの海外の人にとってクリスマスは日本の正月のような行事かもしれません。
しかし、日本ではクリスマスは祝日ではありませんし、みんな普通に働いています。
ですので、お店や役所関係も普通に営業しています。

■日本の温泉文化

海外にも温泉はありますが、多くの場合、水着を着なければいけません。

日本では何も身に着けず「素っ裸」で温泉に入ります。

「素っ裸」とは、水着やタオル、洋服など何も身に着けない裸のことです。

そのことに多くの外国人がおどろくと思いますが、日本人は昔からそうしてきました。

また、日本の温泉ではタトゥーが禁止されてきたという歴史があります。

タトゥーが一般的な文化である多くの外国人はこのことにおどろくようです。

温泉に入りたいという外国人観光客は、タトゥーOKの温泉や、他人の目を気にしなくても良い貸し切り温泉などを利用すると良いでしょう。

ただし、現在では、温泉地に多くの外国人観光客が訪れてくれることもあり、タトゥーOKの温泉もたくさんあります。

事前に確認してみてくださいね。

■多くの日本人は湯船に入る

湯船とは簡単にいうと湯をためる浴そうのことです。

浴そうのことをなぜ湯船と呼ぶのかというと、江戸時代までさかのぼります。

日本では江戸時代、船の中に浴そうをつくり、お金を払ってもらいお客さんに楽しんでもらっていました。

今でいう「銭湯」です。

つまりは、船の上の銭湯を「湯船」と呼んでいたそうです。

今では湯をためる浴そうと同じ意味で使われている言葉です。

日本では湯船に入るのが古くから習慣になっていますが、世界的に見るとこうした習慣を持つ国は少ないです。

湯船に入る文化があるアジア圏でも、日本人ほど毎日湯船に入る習慣はない国がほとんどです。

湯船に入る習慣のない国は、入浴ではシャワーだけで済ませることが多いです。

日本の湿った気候と異なり空気が乾燥した国では、毎日丁寧に体を洗わなくても大丈夫な条件がそろっているためといわれています。

ちなみに、沖縄などは1年中あたたかいので、湯船に入る習慣がなく、シャワーのみという家庭も多いです。

■日本のはんこ文化

国内で仕事や契約、役所などで何かの手続きを行うとき、ほぼ必須なのが「はんこ」です。

日本人にとっては日常的な光景ですが、サイン文化の国から来日した人はおどろくと思います。

はんこ屋さんのなかには、海外の人向けに、名前に漢字を当てて、はんこを作ってくれるサービスを提供しているお店もあります。

あなたも日本に訪れたら自分のハンコを作ってみてはいかがでしょう？

自分の名前の漢字をみるたびに、日本を思い出すのも良い楽しみ方かもしれませんね。

■日本のおもてなし

日本には昔から「おもてなしの精神」があります。

おもてなしとは、知らない人を親切にかんげいすることです。

笑顔で心がけた接客、かゆい所に手が届くようなきめ細かいサービスは、世界に誇れる日本の魅力のひとつです。

■日本の伝統「わびさび」

「わびさび」とは、日本独自の美意識を簡単に表した言葉です。

不完全なこと、枯れたり古くなったもののなかに美しさを感じる考え方です。外国人にもよく知られている茶道や盆栽、日本庭園など伝統あるものには例外なく「わびさびの精神」が取り入れられています。

「わびさび」は言葉では表現できない美しさを表す意味もあり、文章で説明するのが難しい日本語です。わびさびは、日本人にとって大切な文化のひとつです。

■日本では全国で一斉に成人式が行われる

日本の「成人式」は、20歳を迎えたとき、大人になることをお祝いする大切な日です。

新しい大人たちは、スーツや、日本の伝統的な服であるふりそでやはかまを着ることが多いです。この式は、日本特有のものだと言えます。

例えば、アメリカでは16歳になると運転免許が取れるので「Sweet sixteen」というお祝いをします。

ただ、アメリカでは誕生日にお祝いするので、日本のように同じ日に全国でお祝いするわけではありません。

■日本ではひな祭りに高価な人形を飾る

ひな祭りは、3月3日に女の子の成長をお祝いする日本の行事です。この日には、女の子のけんこうと幸せを願って、高価な「ひな人形」を飾ります。

海外の人には珍しく感じるかもしれません。

なぜなら、海外では女の子だけを祝う行事が少ない上、ひな人形みたいに高い値段の物を特別に飾る文化があまりないからです。

クリスマスの時に飾りつけをする国もありますが、ひな祭りのようにたくさんのお金を使うことはめずらしいことだと言えます。

外国の人からすれば、人形を飾る理由を不思議に思うかもしれませんね。

■日本ではバレンタインデーに女性から男性にチョコレートをおくる

バレンタインデーは、2月14日に恋人たちが愛をちかう特別な日です。この日は、昔のローマのキリスト教司祭の話から来ています。

しかし、日本では少し違い、女の子が男の子にチョコレートをあげる日として知られています。これは、世界の中でも日本だけの習慣であり、他の国ではあまり見られないことです。

日本でチョコレートをプレゼントするようになったのは、戦後にお菓子の会社が広めたからだと言われています。

チョコレートの会社はたくさん商品を販売したかったので「バレンタインデーには男性にチョコレートをプレゼントしよう」と宣伝したのです。

海外の事情をよく知らない多くの日本人は、バレンタインデーとはそういうものだと思い込み、それが今の日本でも習慣になっています。

■日本ではつるを縁起のいい鳥とする

日本では「つる」は幸運の象徴とされ、長生きや幸せなどを意味しています。昔から、話や芸術、ことわざにも良く出てくる特別な鳥です。

しかし、世界にはいろいろな文化があって、同じ動物でも違う意味を持つことがあります。たとえば、北欧の国々では、つるを「死を運ぶ鳥」として怖がることもありますし、ハイチでは「悪魔の使者」とされることもあります。

そのため、つるが良い意味を持つ日本の風習、例えば千羽鶴をもらったとしても、怖がったり気分を害したりしないようにしてくださいね。

■日本における食事のときの音

日本では、食事のマナーとして普段は音を立てずに静かに食べることが大切にされています。しかし、そばやうどんを食べるときは、音を立てて食べるのが良いとされています。これは、そばやうどんを「すする」ことで、味や香りをより楽しむことができ、また、熱いめんを冷ましながらかける効果もあります。

この「すする」文化は、日本独特のもので、料理を美味しく食べるための方法として昔から受けつがれてきました。

そばやうどんを食べるときの「すする」音は、失礼ではなく、むしろその食べ物を楽しんでいるのです。

ただ、この日本独特の「すする」文化は、静かにゆっくりとした食事が美德とされることが多い海外では、あまりよい印象を与えません。

皆さんが日本のマナーを学んでくれているように、私たち日本人は海外を訪れたとき、周囲の人に不快感を与えないためにも、このことに注意する必要があります。

■日本では飲食店が無料の水とおしぼりを出す

日本の飲食店では、お客さんに無料で水とおしぼりを出すことが普通になっています。

海外では、水をもらうときにお金を払うことが多いですが、日本では無料で提供されます。おしぼりも、日本独特のサービスで、他の国ではあまり見られません。

このような心づかいは、日本の「おもてなし」の文化を表していて、お店がお客さんを大切にしていることを示しています。

■日本のお年玉

日本のお正月には、子供たちに「お年玉」としてお金をあげる習慣があります。

子供たちはこのお年玉をもらうことをとても楽しみにしています。

大人たちは、しんせきの家に行くとき、お金を「ポチ袋」と呼ばれるお年玉用の小さな袋に入れて準備していきます。

このような習慣は、日本独特のもので、他の国の人にとってはしんせん文化かもしれません。中国や台湾の正月(旧正月)では「紅包」と呼ばれるお金が入った赤いふくろが大人から子供へ渡されますが、それと同じです。

ただし、中国や台湾の紅包は正月だけではなく、誕生日や結婚式など多くのお祝い事で使用されています。

ちなみに、日本のお年玉の金額は、小学生は1,000円～5,000円、中学生は3,000円～10,000円、高校生は5,000円～10,000円、大学生は10,000円～30,000円くらいが平均だそうです。

■日本のお茶文化

日本にはお茶を楽しむ特別な文化「茶道」があります。お茶を点てたり、飲んだりするときの決まったやり方があり、これらのルールはとても大切にされています。

日本のお茶の文化は、他の国の人にとって新しくてももしろい体験になるかもしれません。

■日本の電車はとても人が多い

日本の都市部では、朝のつうきん時間や花火大会のようなイベントのときに、電車がすごくこみ合います。

とてもたくさんの方が電車に乗るため、電車のなかで動くことができないくらいにこんざつすることがあります。

こんなに電車がこむのは、他の国ではあまりけいけんできないことなので、日本を訪れる外国人はおどろくかもしれません。

■日本における電車の駅のメロディー

日本の駅では、電車が来るときや発車する時に、その駅だけの特別なメロディーが流れます。駅によって違う曲を聞くのは、外国の人にとって新しい楽しい体験になると思います。

■日本の接客はとても丁寧

日本ではお店やレストランでの接客がとても丁寧です。

店員さんやウェ이터さんが親切で、気を使った接し方をするので、外国の人はその丁寧さに感心したり、びっくりすることがあります。

日本のサービスの質の高さは、多くの人にとって印象深いけいけんになります。

■日本ではおもてなし文化がすみずみまで行き届いている

日本では、ホテルやレストランでのおもてなしがとても素晴らしいと世界中から評価されています。

例えば、飲食店で注文を聞く時にしゃがんで話を聞いたり、銀行で困っているときにすぐに案内係が助けてくれるなど、たくさんの心づかいが見られます。

また、レストランでは無料でお水やおしぼりを提供してくれたり、雨の日には紙袋がぬれないようにビニールぶくろをかけてくれるなど、細やかなサービスもとてもよこばれています。

■日本のカラオケ文化

カラオケについては、日本が発祥地であり、日本人が友達や仕事仲間と楽しむ文化として広がっています。

カラオケボックスでは、個室で自由に歌を楽しむことができ、この活気あるカラオケ文化は、外国人にとってしんせんでおどろきの体験となることが多いです。

日本のカラオケは、こくさい的にもユニークなごらくとして知られています。

■日本における電車や地下鉄の到着時間

日本の電車や地下鉄は、時間にとっても正確で、遅れることがほとんどありません。

たとえこんでいる時間でも、予定通りに運行されることが多いです。

じっさいに、しゅっぱつ時間よりも少し早くしゅっぱつしてしまったことで、鉄道会社があやまるニュースがあつたくらいです。このような出来事は、海外で大きな話題になりました。

他の国では、電車や地下鉄が時間通りに来ることがめずらしいため、日本の電車の正確さにかんどうする人もいます。日本の交通きかんの時間の正確さは、世界中から評価されているとくちょうの一つです。

■日本では車のクラクションをあまり聞かない

海外では車のクラクションをよく聞きますが、日本では海外ほどクラクションを聞きません。

日本人は相手をそんちょうしたり、めいわくをかけたくないと思っている人が多いので、普段はクラクションをあまり鳴らしません。

■日本では自動はんばいきは地方から都市部まで広く普及している

日本では、スーパーや遊園地、公園、道などはもちろん、公共の場やバス停、駅などのこんざつした場所、会社や学校など、いたるところに自動はんばいきがせつちされています。

これも日本の治安が良いからできることです。

■日本では冬なのに小学生は半ズボン

日本の冬は寒いですが、道ですれ違う小学生が半ズボンだったために「あの子は寒くないのか」とおどろく人もいます。

日本には「子供は風の子」ということわざがあります。
これは「子どもは寒い風が吹く中でも元気に外で遊びまわり、大人は寒がって火のそばをはなれない」という意味です。
もちろん寒さが苦手な日本人の子どももたくさんいますが、冬でも半ズボンの子供はたくさんいます。

■日本人は礼儀正しい

日本では、「すみません」という言葉を、あやまるときだけでなく、あいさつやかんしゃの意味でもよく使います。

でも、海外ではあやまることは、自分の間違いを認めることなので、そんなに簡単には使いません。

日本の電車やバスでは、しずかにするのがマナーで、大声で話さないようにしています。
マスクをする人も多いですが、これは自分を守るだけでなく、風邪を人にうつさないためです。
海外では、マスクをする人は少ないです。日本のこのような振るまいは、他の人へのやさしさ・思いやりです。

■日本人はシャイな人が多い

一般的に海外では「日本人は恥ずかしがりの、内気な性格」と思われることが多いようです。

日本人がシャイな理由は、文化や社会的な要素が関連しています。

人との関わりや集団行動の中で、色々なことがスムーズに進むように自分の意見の主張を控える傾向があります。

つまり「言いたいことを言わない」人が多いということです。

これは多くの場合で日本人と接するとき、コミュニケーションのヒントとなりますので覚えておいてください。

■日本のトイレ

日本では、だれも使っていない公共のトイレのドアは開いていますが、家のトイレのドアは使っていないと閉まっています。

外国では、家のトイレも使っていないときはドアを開けておくことがあります。

日本の家では、トイレを使ったあとはドアを閉めることを忘れないでください。

日本の公共トイレは無料で、とてもきれいです。荷物をかけるフックやたながあるので、荷物を床におく必要がありません。

ヨーロッパなどの海外で公共トイレは有料のことがありますが、日本の公共トイレはすべて無料で利用できます。

無料なのにこんなにきれいなのはすごいと海外の人におどろかれています。

日本の公衆トイレは、洗浄ベンズなど高性能で、世界中から人気があります。

じっさい、外国人観光客の中には、そのトイレを買って帰る人もいます。新しいトイレには、ベンズが勝手に開いたり、水が自動で流れるなど、おどろきのきものがたくさんあります。手を洗う場所にはジェットタオルもあります。

■日本人の相づちというコミュニケーション

日本人は、お話を聞くとときに「うんうん」とか「へえ」と言いながら聞くことが多いです。これは、相づちといい、「ちゃんと聞いてるよ」や「同意しています」というような意味があります。

外国の人の中には、これを失礼だと思える人もいますが、日本ではこれが良いこととされています。

また、日本人は、自分の気持ちをストレートに言わないことがよくあります。例えば、「いいえ」と思っている、「はい」と言うことがあります。

そして、「すみません」という言葉を、あやまるときだけでなく、ありがとうという意味でも使います。

そのため、日本人は話しているとき、相手の気持ちをよく考えながら話します。外国では、知らない人ともかんたんにおしゃべりを楽しむことができますが、日本ではあまり見知らぬ人に話しかけることはありません。

■かいこやたいしょく

日本の会社では、誰かをクビにするとき、法律で30日前に言わなければならないと決まっています。

そのため、もしクビになると言われても、まだ30日間は働くことができます。

もし会社がルールを守らず、30日前に言わなかったら、その人は30日分の給料をもらうことができます。

自分から辞めたいときも、すぐには辞められないことが多いです。次の人に仕事を教えたり、会社が新しい人を見つけたりする時間が必要だからです。

だから、会社によっては、辞めたいと思ったら1ヶ月以上前に言ってくださいと決めていることがあります。

■残業

日本では、以前は残業をたくさんする人を「一生けんめいな人」と思うことが多かったです。

しかし、最近でははたらく人のけんこうを大切にしようと、残業を減らす会社が増えています。

そのため今は「残業したくない」「定時に帰りたい」と思う人も増えてきています。

定時というのは日本の場合 9:00-18:00 のことをいいます。

■お財布をズボンの後ろポケットに入れる

日本を訪れた人は、たくさんの日本人がズボンの後ろのポケットにお財布を入れていることにおどろくかもしれません。

外国では、スリに狙われやすいから絶対にしないことです。でも、日本ではたくさんの人(特に男の人)が普通に後ろポケットに財布を入れています。

イタリア人の友人曰く「イタリアでそんなことをしたら空港を出るまでにスリに遭うだろう」とのことです。改めて日本の治安の良さを感じます。

■電車の中で居眠りをする

外国の人は、日本の電車によく人が居眠りをしているのを見ておどろくことが多いです。外国では、電車で寝るとスリにあたりする危険が高いからです。でも、日本では平日の夕方とかに、電車で寝ている人がたくさんいます。

■車はバックで駐車する

他の国では、車を駐車するときに前向きに停めることが多いです。でも、日本では車をバックで駐車する人がたくさんいます。

これは、前向きに停めたときよりも、バックで停めた方が事故が少なくなるという交通データがあるからです。

また、車の前りんが動くから、バックで停めた方が実はかんたんだという理由もあります。最初はむずかしいかもしれませんが、日本で車を運転するなら、バック駐車を試してみてください。

■見える場所に貴重品を置く

カフェやレストランで席をはなれるとき、荷物を置いて席を確保することがあります。

バッグやスマホを机の上に置く人も多いですが、外国の人はこれを「危ない」と思っています。

外国では、ちょっと目をはなしただけでスリや置き引きの被害に遭ったりすることがよくあります。

特に人が多い場所では、貴重品を見えるところに置くのはとても危険です。

■断る時に顔の前で手を振る

何かを断るとき、私たちは顔の前で手を振ることがあります。でも、このジェスチャーは海外ではうまく伝わりません。

実は、外国ではこれが相手をぶじょくする意味になることもあり、使うのは注意が必要です。

海外で「NO」と言いたいときは、単に「NO」と言葉で伝えるのが一番です。

日本でよく見る「ピースサイン」も、海外のいくつかの国ではよくない意味に取られることがあります。

そのため、外国の人がカメラでピースサインをする日本人を見ると、変に思うこともあります。ただ、ピースサインをする日本人に一切悪気はありません。

■笑うとき、口元をかくす

日本では、女性が口を開けて笑うことをさけることが多く、おしゃべりをしているときにも口元を手でかくすことがよくあります。

これは、大きく口を開けることは良くないこととされているからです。

しかし、外国の人から見たら、口元をかくすのは「何かをかくしている」と思われることがあります。

日本人は会話をするとき、相手の目を見て話すことが多いですが、外国の人は口元を見て話すことが多いので、口元をかくすと「心を閉ざしている」と感じられるかもしれません。

■タクシーのドアが自動

日本のタクシーのドアは自動で開閉します。これは、外国から来た人たちをよくおどろかせます。たとえ、話で聞いていても、じっさいに見ると「本当だったんだ」と思うようです。

また、タクシーの運転手さんの礼儀正しさも、世界的に見てとてもレベルが高いと感じる人が多いようです。

■食品サンプル

日本のレストランでよく見る食品サンプルは、本物みたいによくできていて、外国の人もびっくりします。合羽橋商店街では、そんな食品サンプルを使ったキーホルダーなども売っていて、日本のおみやげとして買う人がたくさんいます。

■アイスコーヒー

日本では夏にアイスコーヒーをよく飲みますが、外国ではあまり一般的ではありませんでした。アイスコーヒーは実は大正時代に日本で生まれた飲み物です。しかし、スターバックスがアイスコーヒーやフラペチーノを世界に広めたおかげで、今ではもっと知られるようになりました。

ヨーロッパでは、コーヒーにアイスクリームや生クリームを入れたものはありますが、日本のようなアイスコーヒーはないのが普通です。だから、日本のアイスコーヒーを初めて飲む外国の人は、そのおいしさにおどろくことが多いです。

もちろん、逆に「コーヒーをうすめた水のような飲み物」と感じる人もいます。

■ベジタリアン向けのメニューのない店が多い

日本ではベジタリアンの人向けのメニューがあるお店が少ないため、ベジタリアンの人が食事をするとき不便を感じる人がいるかもしれません。

日本人の間でもベジタリアンについての理解がまだあまり進んでいません。

ただ、最近ではベジタリアン向けの食事を提供するお店も少しずつ増えてきています。

■Wi-Fiを使えるところが少ない

日本はWi-Fiが公共の場所で使える場所が少なく、外国から来た観光客がインターネットの通信かんきょうに不便を感じる人が多いです。

観光客のアンケートで、日本で困ったことの1位が「Wi-Fiが無料で使えない」で、多くの人がこの問題を感じています。

■呼ぶときに肩に触れる

日本では、誰かを呼ぶときに声が届かない場合、その人の肩を軽くトントンとたたくことがあります。しかし、海外では人の体に触れるのを良いとされないことが多いので、肩を軽くトントンと叩かれて呼ばれることを不快に感じる人もいます。

■食器を持って食べる

食事のマナーも国によって違います。欧米では、食事はフォークやナイフ、スプーンを使って、皿は手に持たないのが普通です。

一方で日本では、茶わんやおわんを手に持って食べるのが正しいマナーとされています。これらの違いは文化の違いから来ています。

■時間外ATM

日本に来た外国人は、時間外でも使えるATMにおどろくことがよくあります。

多くの外国では、ATMが夜間や休日に使えないのは普通なので「日本のATMはいつも使えてすごい！」と感心するようです。

さらに、「夜遅くや休日にATMを動かしているので、手数料などたくさんお金がとられていないか」と心配する人もいます。

ただし、たくさんのお金をとられることはありませんが会社によっては「時間外手数料」として100円や200円程度かかる場合があります。

■カプセルホテル

カプセルホテルは日本でよく知られていて、外国人にも人気です。安くて、一人ひとりが独立した小さな部屋に泊まります。

その未来的な形や、快てきさが人気の理由みたいです。

最近ではより特別なデザインのカプセルホテルが増えていて、楽しい要素がたくさんあります。女性専用のカプセルホテルもあり、安全性はどんどん高くなっています。また、日本だけではなく、海外でもカプセルホテルが増えているようです。

■日本人は海そうをよく食べます

日本はワカメや昆布、ひじき、海苔など海そうをよく食べる国です。

これは、他の国と比べても珍しいことで、日本人の体が海そうの栄養をよく吸収できる特別な体質になっているからかもしれません。

長い間、海そうを食べてきたから、そのような体質になったといわれています。

■卵かけご飯

日本ではご飯に生卵をかけて食べる「卵かけご飯」が普通ですが、外国の人にはおどろきの食べ方です。日本の卵は品質が高くて新鮮で安全なので、生で食べることができます。

これを知った海外の人の中には、自分の国に戻って生で卵を食べてお腹をこわして体調が悪くなった人もいるようなのでくれぐれも注意してくださいね。

■日本人はぶどうの皮をむいて食べる

皮をむかずに食べられるぶどうもありますが、日本では皮が厚いぶどうはむいて食べるのが一般的ですよ。

外国人は、ぶどうの皮をむかずにポイポイと口へ放り込んで食べるため、日本人が器用にぶどうの皮をむいているのを見るとおどろくそうです。

■日本ではまだFAXを使っている

いまだにFAXを手放せない日本人。家庭での使用だけではなく、企業によってはビジネスで使う場面も多く見かけます。

外国人は「ITが発たつしている日本がなぜ？」ととてもふしぎに思っているようです。

多くの日本人もあなたのようにふしぎに思っています。

「日本の文化と日常」は、いかがでしたか？

今後の動画制作に活かしますので、感想を是非コメント欄から教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

